

報道関係者各位

株式会社 図書館流通センター (TRC)

被災地の林業復興に貢献 被災地の木材を活用したコンシェルジュデスク @ 岩手県立図書館

2年前の東日本大震災時、津波到来直後、岩手県釜石・大槌地域において大規模な山火が発生しました。延焼面積は534ヘクタールにも及び、この地域の林業は大きな打撃を受けました。

岩手県立図書館を指定管理者として受託運営する株式会社図書館流通センター (TRC) は、この地域の林業復興に貢献するべく、岩手県立図書館で行っているコンシェルジュサービス (本の案内) の拠点として、被災地の木材を使用したデスクの作成を釜石地方森林組合に依頼、このたび下記の写真のようなデスクが完成しました。

4月1日から図書館内に設置しコンシェルジュサービスの充実を図ると共に、被災地の木材の活用について、全国にPRしたいと考えております。

今後の岩手県立図書館のサービス向上と、復興にかける取り組みにご注目ください。



被災地の木材でデスクを、と提案、企画にも参画したコンシェルジュ (TRC スタッフ)。
「津波の被害も甚大でしたが、町や山が火に包まれる様子も、言葉を失う絶望的なものでした。あの災害を伝えていきたい、という私たちの思いも合わさり、ずっしりと重たいデスクになりました。このデスクを拠点に、より一層のサービス向上に努めます」

- 上記のほかにも、岩手県立図書館の被災地域に目を向けていただくための取り組み - 被災地企業からの制服の調達

津波により甚大な被害を受けた地域のひとつ、岩手県陸前高田市。陸前高田市内で操業している東北縫製株式会社に、上記コンシェルジュの制服を発注しました。被災地域の思いのこもった制服を4月1日から着用し、新たな気持ちで本のご案内をいたします。

東日本大震災に関する資料の収集と保存

岩手県立図書館は、被災県の県立図書館としての責務を果たすべく、今回の震災に関する図書、雑誌、新聞、映像資料、チラシ一枚に至るまで、幅広い資料の収集・保存に取り組んでいます。あわせて、収集した資料の活用を図るため、各種情報を「東日本大震災情報ポータル」にて発信しています。<http://www.library.pref.iwate.jp/0311jisin/>

講演会「復興釜石新聞編集長が語る東日本大震災～災害時における地域紙の役割～」を開催

来る4月20日(土)、『復興釜石新聞』の川向修一編集長を図書館にお招きし、講演会「復興釜石新聞編集長が語る東日本大震災～災害時における地域紙の役割～」を開催いたします。この講演が、もう一度被災地に関心を向けていただくきっかけとなることを願っています。また、地元在住記者の視点を通して、復興に向かう被災地の様子を知る機会になればと考えています。

株式会社図書館流通センター(TRC) 概要

社名:株式会社図書館流通センター

設立:1979年12月20日

代表者名:谷一 文子(代表取締役)

事業内容:図書館総合支援業務:書誌情報データベース TRC MARC の作成・販売、図書館運営受託業務を含む一貫性のある図書館支援業務。公共図書館の受託運営については、全国公共図書館の1割を超える381館をお受けしており、そのうち187館を指定管理者として運営しています。(2013年4月1日現在)

岩手県立図書館の受託運営については、2006年「いわて県民情報交流センター(アイーナ)」オープン時から「アイーナ」の指定管理者である「結グループ」の一員として岩手県立図書館業務を担当してまいりました。2013年度からは図書館単独での指定管理者の公募があり、引き続き3年間指定管理者として運営を行ってまいります。

岩手県立図書館 概要

岩手県盛岡市盛岡駅西通1-7-1いわて県民情報交流センター(アイーナ)内

蔵書冊数:約70万冊(2012.4.1時点) <http://www.library.pref.iwate.jp/>

特色:2011年3月11日の震災時、いわて県民情報交流センター(アイーナ)は避難所の役割も果たしました。県内の市町村図書館のバックアップ機能はもちろん、被災県の県立図書館としての責務を果たすべく各種情報を「東日本大震災情報ポータル」にて発信しています。

TRC スタッフ 52名(うち司書41名)

この件に関するお問い合わせ

株式会社図書館流通センター広報:山田万知代

電話 03-3943-2221 FAX 03-3943-8441 E-mail desk@trc.co.jp

TRC ホームページ <http://www.trc.co.jp/>